

<株式会社エフエム東京 第340回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成19年5月8日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）
 - ◇出席委員（6名）

子安美知子	委員長	青池慎一	副委員長
内木文英	委員	横森美奈子	委員
渡辺貞夫	委員	内館牧子	委員
 - ◇欠席委員（1名）

香山リカ	委員
------	----
4. 議題
 - (1) 最近の活動について
 - (2) 番組試聴：「～TOKYO FM ホリデイスペシャル～
AP BANG！ RADIO！東京環境会議 supported by 佐川急便」
2007年4月30日（祝）16:00～18:55放送分
<試聴時間：約25分>

<<議事内容>>

議題1：最近の活動について

◎ アースデー・コンサートについて

日時：2007年4月22日（日）16:30 開場、17:00 開演

放送：18:00-20:00 全国38局ネット生放送のほか13の国と地域・45局へも配信

会場：日本武道館

出演者：m-flo、RAG FAIR、加藤ミリヤ、mink、大塚 愛

18回目となる今年のアースデーコンサートには、環境意識が強く若者に等身大でコミュニケーションできる5組のアーティスト、m-flo、RAG FAIR、加藤ミリヤ、mink、大塚 愛が出演し、「Message to Blue Planet」というコンセプトのもと、「青い地球」の未来のために今できることをメッセージしました。会場には6503名の来場者が詰めかけました。

また、会場では、チョモランマで清掃活動を行っている野口健氏との生映像交信をはじめ、若林正俊環境大臣、小池百合子前環境大臣／内閣総理大臣補佐官、ノーベル平和賞受賞のケニヤ副環境相ワンガリ・マータイ女史、若田光一宇宙飛行士、作家C.W.ニコル氏、坂本龍一氏、ap bank代表理事の音楽プロデューサー小林武史氏等多数の方々からのビデオメッセージ上映や、JAXA(宇宙航空研究開発機構)による宇宙から見た地球の映像を交えて、地球環境問題への意識を強く訴えました。

この模様は、同日18:00~20:00の間、全国38局ネットの生放送番組で中継したほか、ヨーロッパ・アメリカ・南アフリカ・中国など13の国と地域・45の放送局へ配信しました。生放送を行ったグアムのFM104からは、放送後地元の環境保護団体から、「言葉の壁を越え、日本からの意思が伝わってきた」との電話が寄せられたという連絡があるなど、今年もアースコンシャスメッセージをワールドワイドに発信する特番となりました。

来年に向けては、「アースコンシャス」の哲学を、環境意識の高まりの中で、さらに具体的企画としていかに人の関心を捉えるものに発展させていくかを検討して参ります。

◎クロスメディア展開について

3月のインターネット月間アクセスが過去最高の1億527万ページビューとなり、この1年間で1.5倍の伸びを示すことが出来ました。

4月からはさらに各ワイド番組のホームページの内容を増強。例えば「Tapestry」ではSNSと番組の連動をより密接にし、普通は出会うことがないであろう立場の異なる女性リスナーたちが書き込む様々な話題をもとに番組を展開。4月は「東京の夫婦のかたち」を探ろうと、ライフスタイルについての意見を募ったところ、

- ①親との同居について、男女とも意外に同居希望が多く、3人に1人は同居を望み、かつ女性側の親との同居を望むケースが大半。

②家事分担について、男性の分担度合いが意外に高く、7割の女性が満足しており、男性も半数以上が満足している。

③専業主婦希望の女性とそれを望む男性が意外にも増加している。など、女性の生き方をめぐる実像が浮かび上がるwebコミュニティとなっています。SNSへの参加者は従来は週100名程増加していたものが、4月に入ってから週250名の増加となり、番組を核としたコミュニティが明確にできあがってきました。

17時からの新ワイド「WONDERFUL WORLD」ではリスナー特派員を募集し、身の回りのニュースを写メールと共に投稿してもらおう展開を行っていますが、連日数百件のメールが寄せられ、例えば、

「げんきにしとる おこめとやさいおくつたからね
ひらがなしか打てないおかんからのメールです。
短いメールですが凄く時間をかけて一生懸命打ってくれたメールだと思います。」と年老いた母の写真を添えてくれたリスナー。

「画像のダックスは、PCの里親サイトで見つけ、我が家に来ました。左の犬は捨て犬でした。最近、高いお金を出して買って来ても、「ゴミ」でも捨てるかのように生き物を捨ててしまいます。信じられませんが、野良猫の中には、シャム猫などの高級猫も居る位です。」と3匹の愛犬の写真を添えてくれたリスナーなど、様々な世の中の空気を感じるリアルなニュースが寄せられています。

議題2：番組試聴

【番組名】「～TOKYO FM ホリデイスペシャル～

AP BANG！ RADIO！ 東京環境会議 supported by 佐川急便」

【放送日時】2007年4月30日（祝）16:00～18:55 放送分

【番組概要】

環境活動支援NPO銀行「ap_bank*1」代表の音楽プロデューサー小林武史氏と広告トップクリエイターの^{やない}箭内道彦氏がタッグを組んで企画した、音楽を通じて環境問題を考えるライブイベント「AP BANG！ 東京環境会議」は、ライブ、DJ、映像、アートなど、様々なジャンルのクリエイターが新たな“エコ

レゾナンス(環境に対する共鳴)“を発生させるべく東京・新木場STUDIO COASTに集結。「環境と欲望」をテーマに、3月16日から18日まで、3日間にわたって繰り広げたコラボレーションイベントとなりました。

今回のスペシャルプログラムはap bankと交渉し放送権を獲得、同イベントに協賛していた佐川急便の番組提供も実現させました。

このイベントから、KREVAや^{クレバ}あやか^あい^{シーモ}、SEAMO、井上陽水など豪華なラインアップの、この番組でしか聴く事ができない貴重なライブ音源を厳選してお届けしたのに加えて、放送当日は、小林武史氏、箭内道彦氏、「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人代表幹事のマエキタミヤコ女史が生出演し、地球環境問題をリアルに、そして楽しみながら考える3時間となりました。

また、この番組で使用する電力の一部は、グリーン電力(バイオマス*2 発電による自然エネルギー)でまかなうという、アースコンシャスマッセージを明確にした演出を行いました。

*1「ap bank」：2003年、小林 武史、Mr.Children 櫻井 和寿、坂本龍一の3名が、自己責任のもとで拠出したお金をもとに「可能性ある新しい未来を作ろうとしている環境プロジェクトに融資を行う」という目的で設立。自然エネルギー、省エネルギーなど環境に関する様々なプロジェクトに融資をする非営利組織。

*2「バイオマス」：再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。廃植物油、木質廃材等

◎ 視聴内容

当日の3時間に亘る生放送の中から、ゲストトークやメッセージコメント、イベントのライブの様様をダイジェストでお聴き頂きます。

<試聴時間：約25分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 3時間もの番組の一部を聴いただけで批評するのは非常に無理があるとは思っているものの、若い人たちを環境という問題に引き付けるような取り組みをし、小林武史氏まで番組に出演してもらえたという点などは評価できる。

環境問題は、井上陽水に影響を受けてきたような大人の世代をどうひきこめるかが、これからの課題だと思う。この番組はよく聴くといいいことを言っているのに、なぜか言葉が頭に入っていない。それは、遠まわしに優しくいいすぎているからではないか。もう少しストレートに危機を伝える部分を明確にしていけば、陽水世代もひきこめるのではと思う。

「東京環境会議」というネーミングはすごくいい。ぜひ続けてほしい。

- 自分たちを律してよりよい社会にしていこうという視点が込められていてよかった。いまの日本社会に欠けている姿勢であり、「環境と欲望」というテーマもよかった。環境について考える上での、重要な切り口を提示したと思う。
一つ欠けていたものとして、欲求の充足の仕方にはいろいろある、こんな欲求の充足の仕方だってあるんだ、という提示があってもよかった。
また、直球で物を言う人、かみくだいて解説する人、優しく広めていく人、いろんな役割の中で、この番組はどこを担うのかを明確にしたほうが良い。市民の立場で噛み砕いて解説する人が必要だったのではないか。
- 日本の教育に必要なのは意欲と情熱。理屈で説明するより、想いや願いや祈りといったものが、もっと伝わってくるとよかった。
- 番組のつくり方としてはやや甘ったるい、煮え切らない印象を受けた。
例えば、野口健さんのように実際に厳しい現状を目の当たりにしながら活動をされている方などをゲストにお呼びしたら、もっとストレートな、熱い思いや情熱が伝わってくるような話が聞けたのではないか。
- あえて、クラブという、環境問題になど興味がなさそうな若者たちが多く集まる場所で開催したり、箭内道彦氏が“環境ヒーロー”と自称していたりなど、面白い考え方で、一歩進化した捉え方だと思う。ただ、環境に興味のない人たちをこれだけひきこめたのだから、そこでこのイベントによってどう吸収し、どう変わったのか、会場でのグッズやフード、ドリンクに至るまでどれくらい環境を意識した展開が行われたのかなどが盛り込まれるとよかったのではないか。

- モラルには頭で理解するものと、反射的行動によるものがある。環境を守ろうというモラルは、頭で捉えるのにとどまらず、普段の生活の中で行動していけるようになるまでには、相当の時間がかかるものだろう。試行錯誤を続けながらそれでもやっていかなければと思う。そう考えれば、時にはこのように3時間にわたる番組があったときに、そのどこかを聴いた人が少しでも何かを感じ取ってくればよい。少なくともスローガンを抱えるだけで終わってしまうような動きではないところを目指していることが感じられた。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「Heart Sharing」
5月27日（日） 6：00～8：30放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は6月5日（火）に開催することを決めた。

以上